



# DFM Studio

## DFM Studio

### クイックスタートガイド

株式会社エリジョン

2022年 1月

# 目次

1. 検証結果ファイル(.far)作成の概要.....	1
1.1. ASFALIS TransServerを利用する場合の検証実行方法.....	2
1.2. ASFALIS SmartLauncherを利用する場合の検証実行方法.....	4
1.3. 検証用パラメーター設定ツールの使い方.....	7
2. 検証結果ファイル(.far)確認の概要.....	10
2.1. DFM Studio Inspector を利用する場合.....	12
2.2. DFM Studio Reporter を利用する場合.....	17
2.3. レポート出力パラメーター設定ツールの使い方.....	19

# 1. 検証結果ファイル(.far)作成の概要

DFM Studio Checkerを利用して検証結果ファイル(.far)を作成するには、ASFALIS TransServerを利用する方法とASFALIS SmartLauncherを利用する方法の2つがあります。

## A. ASFALIS TransServerを利用する方法

- ASFALIS TransServerを利用する場合、ユーザーはWebブラウザから検証対象データを指定することができます。検証処理は ASFALIS Slave Nodeの動作しているコンピュータで実行されます。各ユーザーが投入した検証内容はASFALIS TransServer上で管理され、検証結果はWebブラウザからダウンロードすることができます。

## B. ASFALIS SmartLauncherを利用する方法

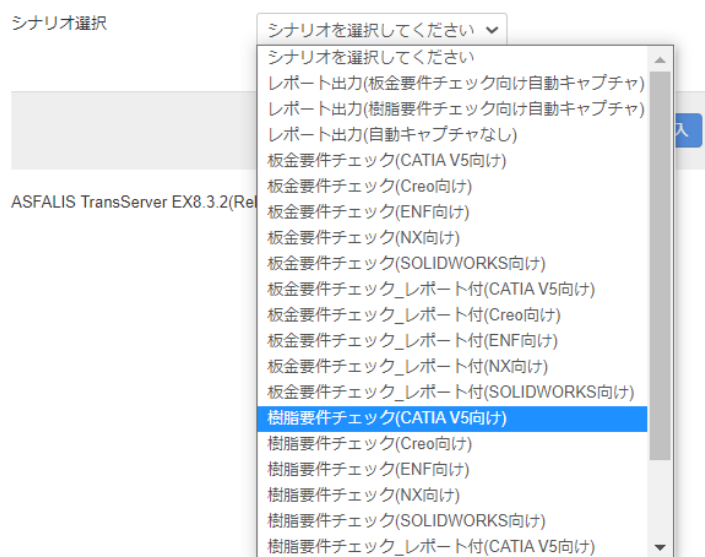
- ASFALIS SmartLauncherを利用する場合、ユーザーはCAD(Creo、NX、SOLIDWORKSに対応)にプラグインされたメニューまたはエクスプローラーのコンテキストメニューから検証を実行することができます。検証結果(.far)は指定したファイルパスに作成されます。

## 1.1. ASFALIS TransServerを利用する場合の検証実行方法

1. ASFALIS TransServerにログインします。
2. ジョブを作成します。
  - 本ガイドでは、「すぐにジョブ作成」を用いてジョブを作成する手順を説明します。



3. シナリオを選択します。
  - ここでは、CATIA V5データに対して樹脂要件チェックを行うことを想定し、「樹脂要件チェック(CATIA V5向け)」を選択します。



- DFM Studio Reporterのライセンスを保有しており、レポート出力まで自動で実行したい場合は、「樹脂要件チェック\_レポート出力(CATIA V5向け)」を選択します。

異なる検証設定で検証を行いたい場合は、管理者にご相談ください。  
管理者は下記の手順でパラメーターファイルをアップロードできます。

パラメーターの詳細については、

「DFM\_Studio\_CheckItem\_Guide\_Plastic\_ja.pdf」、

「DFM\_Studio\_CheckItem\_Guide\_SheetMetal\_ja.pdf」を参照ください。



1. [管理者機能] > [シナリオ管理]より該当シナリオを選択する。
2. DFM Studio Checker (dscheck)コンポーネントを開き、カスタマイズスクリプト設定ファイル(アップロード) (argumentfile\_upload)を開く。
3. [アップロード]を選択し、編集した iniファイルをアップロードする。
4. 画面下までスクロールして[更新]を選択する。

4. **ファイル選択** ファイル選択ボタンを押して、検証したいCATIA V5のパートデータ(.CATPart)を指定します。

- 指定したデータはASFALIS TransServerにアップロードされ、ASFALIS Slave Nodeの動作しているコンピュータで検証処理が行われます。
- 投入したジョブは、オペレーションモニターから状態を確認したり、結果をダウンロードしたりすることができます。



5. オペレーションモニターから検証結果(.far)をダウンロードします。

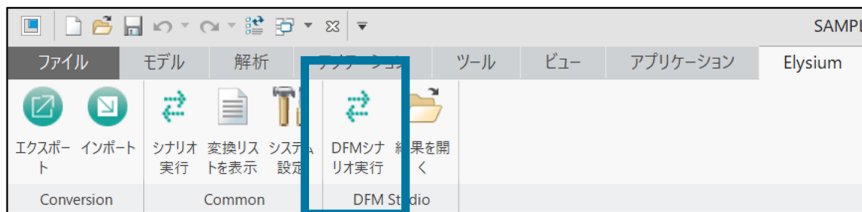
- ダウンロードした検証結果(.far)は、DFM Studio InspectorおよびModel Viewerを利用して確認することができます。
- DFM Studio InspectorおよびModel Viewerの詳細については、「DFM\_Studio\_Inspector\_Manual\_ja.pdf」をご参照ください。

## 1.2. ASFALIS SmartLauncherを利用する場合の検証実行方法

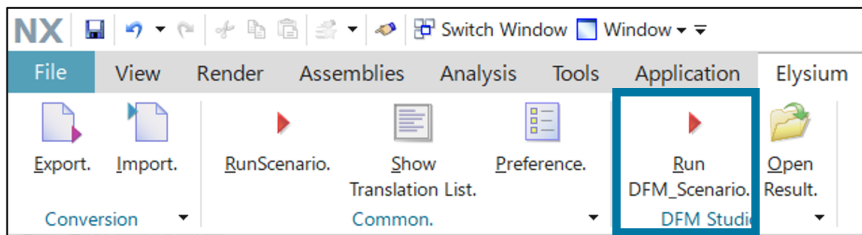
1. 初めにシナリオ実行ダイアログを起動します。

- 。CADのプラグインメニューから起動する場合は、各CADの「DFMシナリオ実行」または「Run DFM Scenario」を実行します。CADのプラグインメニューから実行した場合、CADに読み込んでいるデータが検証対象になります。

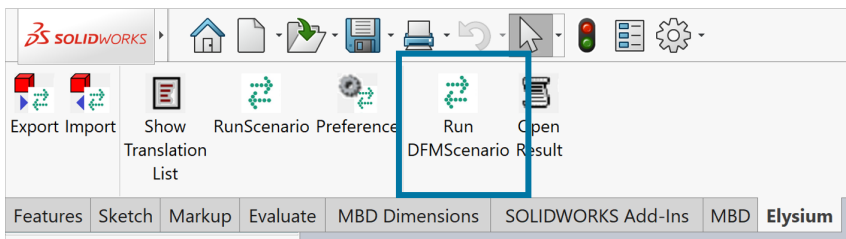
### Creo



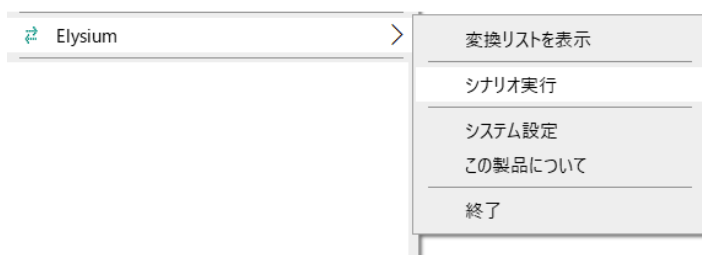
### NX



### SOLIDWORKS



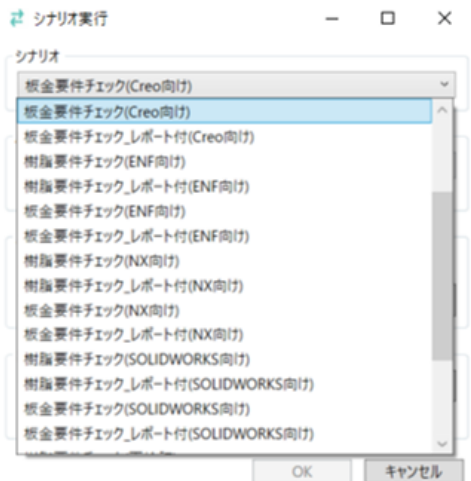
- 。エクスプローラーのコンテキストメニューから起動する場合は、[Elysium] - [シナリオ実行]を選択します。エクスプローラーのコンテキストメニューから実行した場合、右クリックで選択したデータが検証対象になります。



2. シナリオ実行ダイアログで、検証セットおよび検証パラメーターを選択します。

- まず、検証セットをシナリオから選択します。

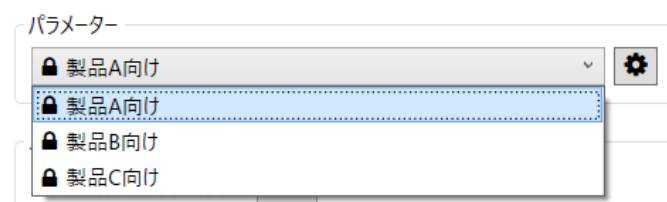
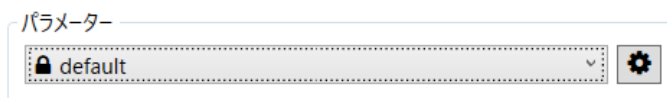
ここでは、Creoデータに対して板金要件チェックを行うことを想定し「板金要件チェック(Creo向け)」を選択します。



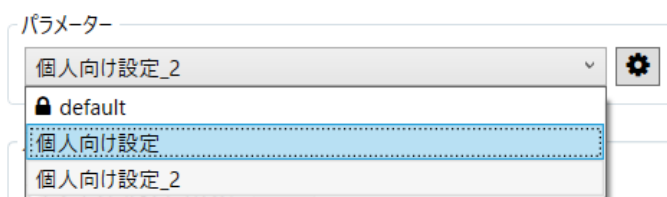
- もしDFM Studio Reporterのライセンスを保有していてレポート出力まで自動で実行したい場合は「板金要件チェック\_レポート出力(Creo向け)」を選択します。


b. 次に、検証パラメーターを選択します。

- インストール時は、「model\_check」、「requirement\_check」のパラメーターが表示されます。なお、樹脂要件チェックを選択した場合、インストール時は「default」パラメーターのみ指定できます。
- システム管理者によって予め検証パラメーターが設定されているシナリオフォルダーを指定している場合は、設定されたパラメーターがプルダウンリストに表示されます。



- 鍵マークが付いているパラメーターは管理者によって設定されているため編集することができません。パラメーター設定ツールを使って別名で保存することで、目的に合わせて編集した個人用のパラメーターを使用することができます。

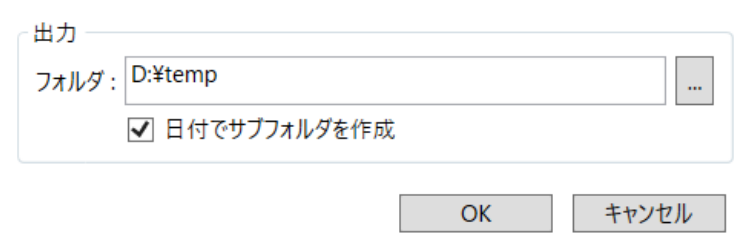


- c. 選択したパラメーターの詳細を確認したい場合、またはパラメーターを変更したい場合は、  
 ギアボタンを押してパラメーター設定ツールを起動します。

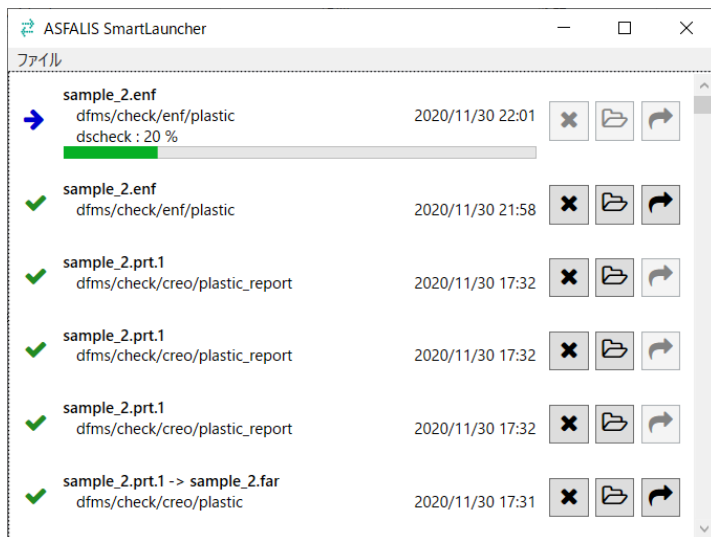
- パラメーター設定ツールを起動するには Microsoft Excel が導入されている必要があります。

検証パラメーター設定ツールの詳細については、[1.3, “検証用パラメーター設定ツールの使い方”](#)を参照ください。

- パラメーターを選択後、出力先を選択し、OKボタンを押します。検証が開始されます。




- 検証が開始されると変換リストが起動します。変換リストでは、実行したジョブの進捗状況や過去に実行した結果を参照できます。



- 項目を選択し、 矢印ボタンを押します。DFM Studio Inspectorが起動して、検証結果ファイル(.far)が開きます。

なお既にDFM Studio Inspectorが起動している場合は、追加読み込みします。

- 項目を選択し、 フォルダーボタンを押すと、検証結果ファイル(.far)、もしくは検証結果エクセルレポートが出力されたフォルダーを開くことができます。
- 出力した検証結果(.far)は、DFM Studio InspectorおよびModel Viewerを利用することで確認することができます。

DFM Studio InspectorおよびModel Viewerの詳細については、「DFM\_Studio\_Inspector\_Manual\_ja.pdf」をご参照ください。



## 1.3. 検証用パラメーター設定ツールの使い方

この項では、検証用パラメーター設定ツールの使い方について説明します。詳細は「DFM\_Studio\_Parameter\_Settings\_Tool\_User\_Manual\_ja.pdf」を参照ください。

DFM Studio パラメーター設定ツール						各パラメーターの詳細は、検証項目/形状認識 設定ガイドを参照してください。
A 検証On/Off 切替		B 別名保存	C 上書き保存	D 設定終了	E ファイル削除	バージョン情報
検証フラグ	カテゴリ	種別	DFMパラメーター名	設定値		
On	1.1 厚肉部	判定パラメーター	最大肉厚	3.5		
On	1.1 厚肉部	判定パラメーター	最大 基本肉厚比	1.2		
On	1.1 厚肉部	認識パラメーター	肉厚計測最小角度	130.0		
On	1.1 厚肉部	認識パラメーター	基本肉厚比チェックフラグ	FALSE		
On	1.2 薄肉部位	判定パラメーター	最小肉厚	1.1		
On	1.2 薄肉部位	判定パラメーター	最小 基本肉厚比	0.8		
On	1.2 薄肉部位	認識パラメーター	肉厚計測最小角度	130.0		
On	1.2 薄肉部位	認識パラメーター	先端除外フラグ	TRUE		
On	1.2 薄肉部位	認識パラメーター	最小端面距離比	3.0		
On	1.2 薄肉部位	認識パラメーター	基本肉厚比チェックフラグ	FALSE		
On	2.1 ボス	判定パラメーター	最小ボス勾配	0.5		
On	2.1 ボス	判定パラメーター	最大ボス側面/根元肉厚比	0.8		
On	2.1 ボス	判定パラメーター	最大ボス底面/根元肉厚比	1.2		
On	2.1 ボス	判定パラメーター	最大ボス高さ/外径比	3.0		
On	2.1 ボス	判定パラメーター	最小ボス先端幅	1.0		
On	2.1 ボス	判定パラメーター	最大ボス根元R	1.0		
On	2.1 ボス	判定パラメーター	最小ボス根元R	0.5		
On	2.1 ボス	認識パラメーター	勾配 検証フラグ	TRUE		

### A. 検証On/Off切替

検証フラグ列の全ての行のOn/Offを切り替えます。

### B. 別名保存

読み込んでいるパラメーターを別名保存します。🔒 鍵マークが付いているパラメーターは上書き保存することができないため、編集したい場合は別名保存する必要があります。別名保存で新しいパラメーターを作成すると、パラメーター設定ツールが終了し、作成したパラメーターが選択されている状態になります。作成したパラメーターは、再利用可能です。別名保存したファイルは、以下に保存されます。

- インストール時に、システム設定および変換設定の適用範囲について「このコンピュータを使用するすべてのユーザー」を選択した場合は、以下になります。


- 樹脂要件チェック／樹脂要件チェック（レポート付）の場合：

%PUBLIC%\Documents\Elysium\ASFALIS

SmartLauncher\scenario\shared\_param\plastic\_check\

- 樹脂要件チェック用レポート出力の場合:  
%PUBLIC%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\plastic\_report
- 板金要件チェック／板金要件チェック（レポート付）の場合:  
%PUBLIC%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\sheet-metal\_check
- 板金要件チェック用レポート出力の場合:  
%PUBLIC%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\sheet-metal\_report
- インストール直後は、システム設定および変換設定の適用範囲について「<UserName>のみ」を選択した場合は、以下になります。
  - 樹脂要件チェック／樹脂要件チェック（レポート付）の場合:  
%LOCALAPPDATA%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\plastic\_check\
  - 樹脂要件チェック用レポート出力の場合:  
%LOCALAPPDATA%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\plastic\_report
  - 板金要件チェック／板金要件チェック（レポート付）の場合:  
%LOCALAPPDATA%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\sheet-metal\_check
  - 板金要件チェック用レポート出力の場合:  
%LOCALAPPDATA%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\sheet-metal\_report

### C. 上書き保存

選択したパラメーターを上書き保存します。本機能は、 鍵マークが付いていないパラメーターにのみ有効です。上書き保存すると、パラメーター設定ツールが終了し、作成したパラメーターが選択されている状態になります。作成したパラメーターは、再利用可能です。

### D. 設定終了

パラメーター設定ツールを終了します。

### E. ファイル削除

パラメーターファイルを削除します。<ファイル削除>ボタンを押すと、ファイル選択ダイアログが表示され、削除するパラメーターファイルを選択できます。

### F. ラベル

- 検証フラグ: Onは検証する、Offは検証しないことを示します。
- カテゴリ: 形状認識種別または検証項目名を表します。
- 種別: 形状認識に用いられる場合は認識パラメーター、合否判定に用いられる場合は判定パラメーター、レポート出力に用いられる場合はレポートパラメーターと表示されます。

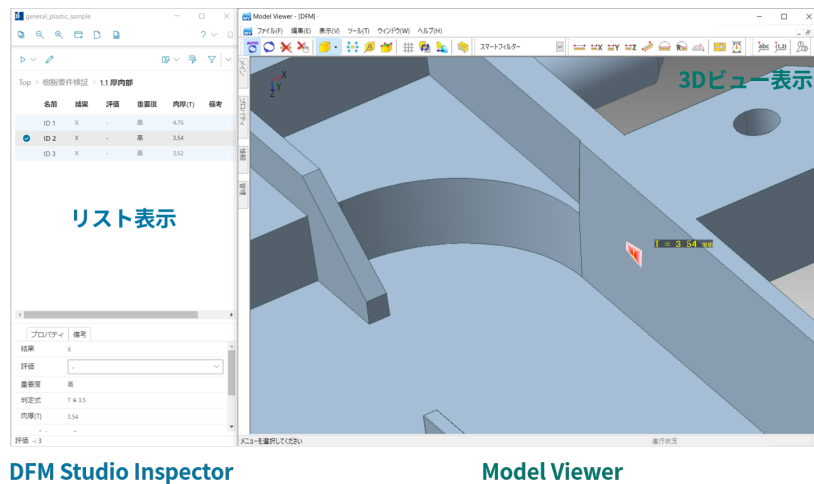
- DFMSパラメーター名: DFM Studio Inspectorに表示されるパラメーター名を表します。各パラメーターの意味は、検証項目ガイドをご参照ください。
- 設定値: 設定されているパラメーター値を表します。

## 2. 検証結果ファイル(.far)確認の概要

DFM Studio Checkerを用いて作成された検証結果ファイル(.far)を確認するには、DFM Studio InspectorおよびModel Viewerを利用する方法とDFM Studio Reporterを利用してレポートを出力して確認する方法の2つがあります。

### A. DFM Studio InspectorおよびModel Viewerを利用する場合

- DFM Studio InspectorおよびModel Viewerを利用する場合、検証結果の内容をリストと3Dビューで詳細に確認することができます。DFM Studio Inspectorは検証結果をリストで表示し、ソートやフィルタリング機能を用いることで優先的に確認すべき箇所を絞り込むことができます。Inspectorで指定した検証箇所は、Model Viewer上の3Dビューで確認できます。Model Viewer上では、ハイライト表示、周辺表示、断面表示など様々なビュー状態を簡単に切り替えることができ、検証箇所を容易に分析することができます。



DFM Studio Inspector

Model Viewer

### B. DFM Studio Reporterを利用する場合(DFM Studio Reporterのライセンスが必要です)

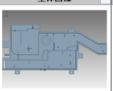

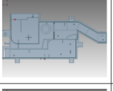

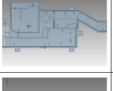



- DFM Studio Reporterを利用する場合、検証結果(.far)を Microsoft Excel 形式のレポートに変換することができます。DFM Studio InspectorやModel Viewerをインストールすることなく、手軽に結果を確認することができます。またDFM Studio Reporterでは、各箇所を適切な視点から自動キャプチャーすることができ、その画像がレポートに自動貼付されるため、3Dモデルを開かずとも検証結果の詳細を確認、分析、判断することができます。

自動保存 22 general\_plastic\_sample.xlsx 検索

ファイル ホーム 挿入 ページレイアウト 数式 データ 校閲 表示 ヘルプ Acrobat

共有 コメント

H1

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	105	2.1	ボス															
8	面	材料	評価	画像1	画像2	画像3	全体画像	詳細画像	φ	全配	規定	t	T	1/B1	1/B	側面	底面	縦元
9	1	X	-						X	0.05	5	φ	0	0	0.47	1	0.7	15
10	2	X	-						X	0.05	5	φ	0	0	0.9	1	1.2	15
11	3	X	-						X	0.05	5	φ	0	0	0.9	1	1.2	15
12	4	X	-						X	0.05	5	φ	0	0	0.59	0.89	1.7	24
13																		

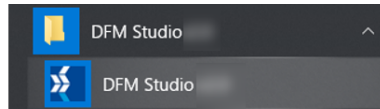
1.1 厚肉部 1.2 薄肉部 2.1 ボス 3.1 リブ 4.1 凸シャープエッジ(製品シャープエッジ) 4.2 凹シャープエッジ(金型シャープエッジ)

## 2.1. DFM Studio Inspector を利用する場合

1. ショートカットもしくはWindowsのスタートメニューから、DFM Studio Inspector(以下、Inspectorと呼びます)を起動します。
  - Inspectorが起動すると、同時にModel Viewerの起動を促す確認メッセージが表示されます。

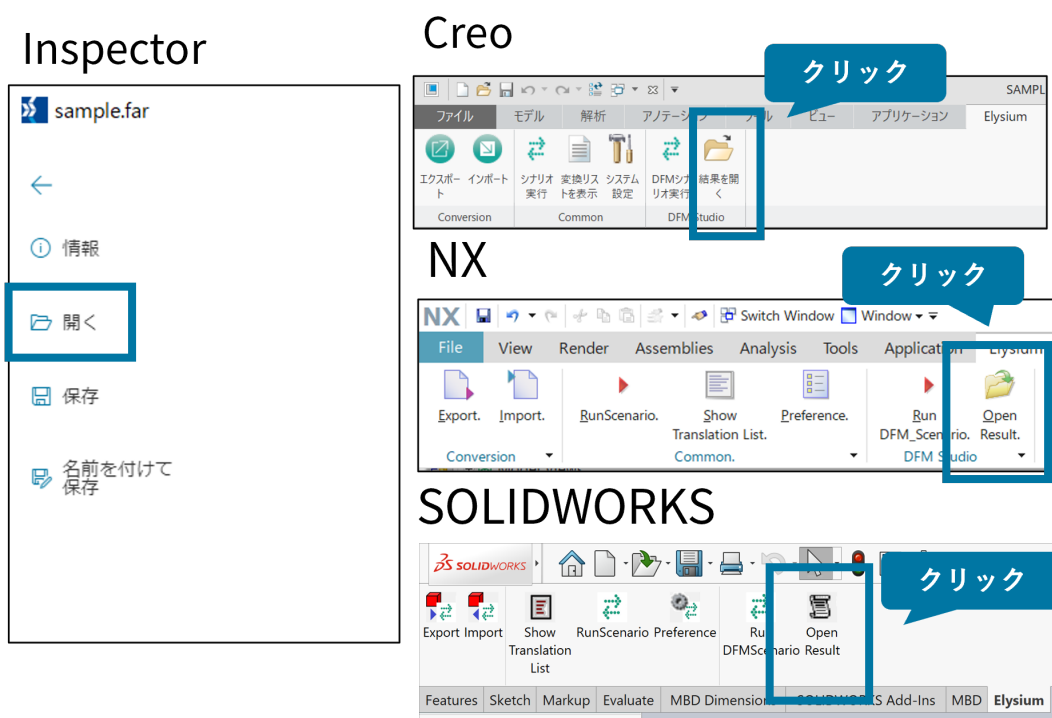


ショートカット

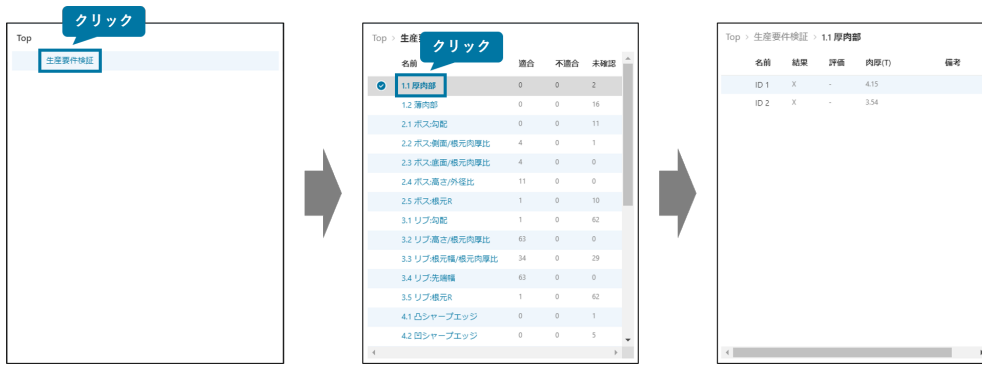


スタートメニュー

2. Inspectorのファイルメニュー、ドラッグ&ドロップ、ASFALIS SmartLauncherの変換リスト、もしくはCADプラグインメニューの「結果を開く/Open Result」から開く、などの方法で検証結果ファイル(.far)をInspectorで開きます。
  - ASFALIS SmartLauncherのCADプラグインメニューの「結果を開く/Open Result」から開くには、CAD Connectorのライセンスが必要になります。

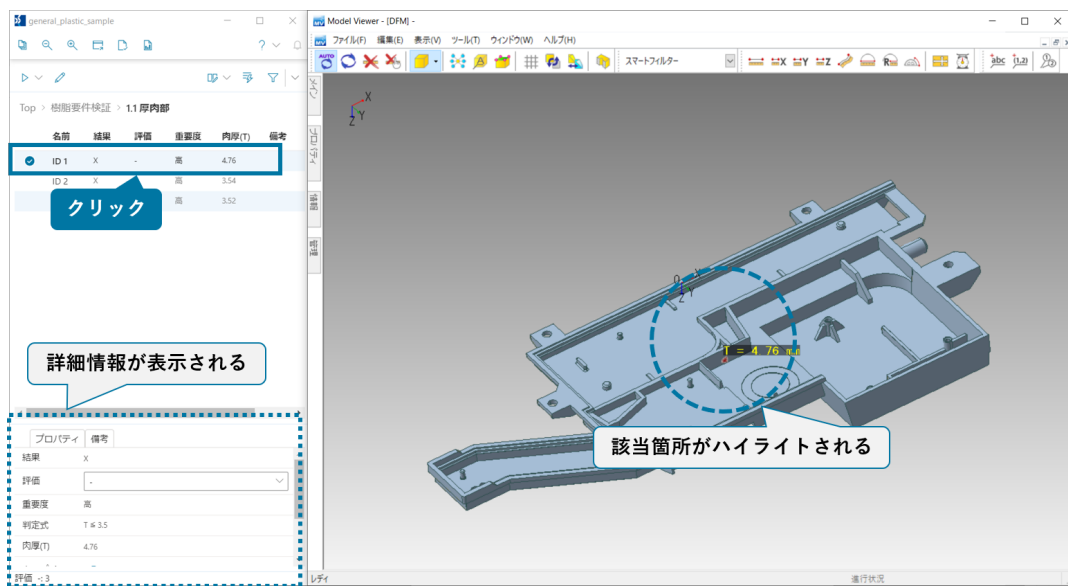


- Inspectorに検証結果が読み込まれると、Model Viewerに3Dデータが読み込まれます。
  - ASFALIS SmartLauncherのCADプラグインメニューの「結果を開く/Open Result」から検証結果を開いた場合は、CAD上に表示されているモデルとModel Viewer上のモデルのビューが連動します。
3. Inspectorのアイテムリストを選択し、確認する検証項目を選択します。

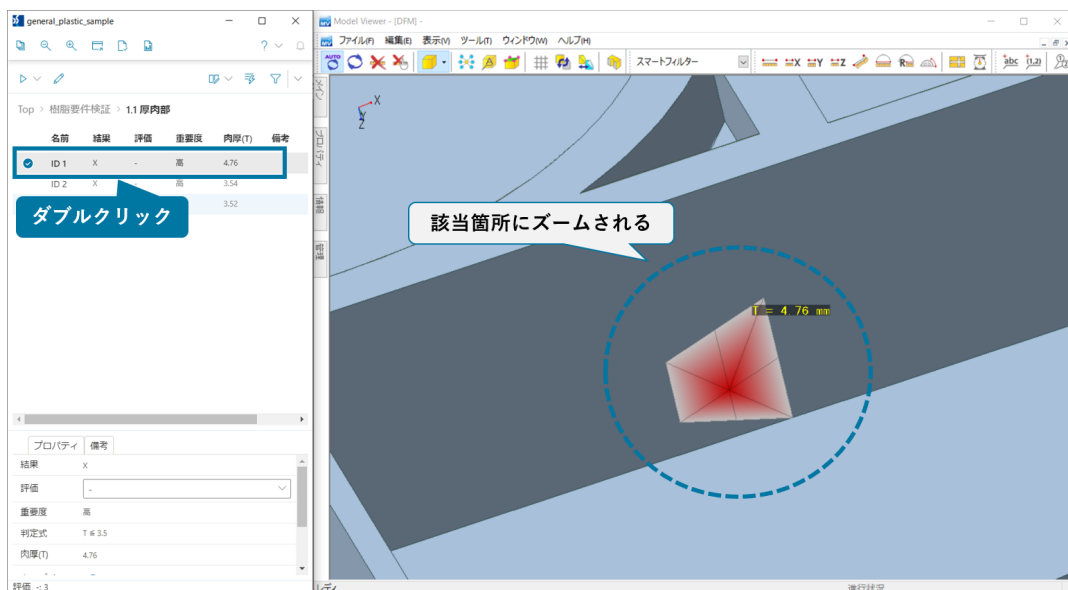


#### 4. 各検証項目のアイテムリストからアイテムを選択します。

- 。アイテムを選択すると、該当検証箇所の詳細がプロパティリストに表示されます。また、該当箇所がModel Viewer上の3Dビューでハイライトされます。



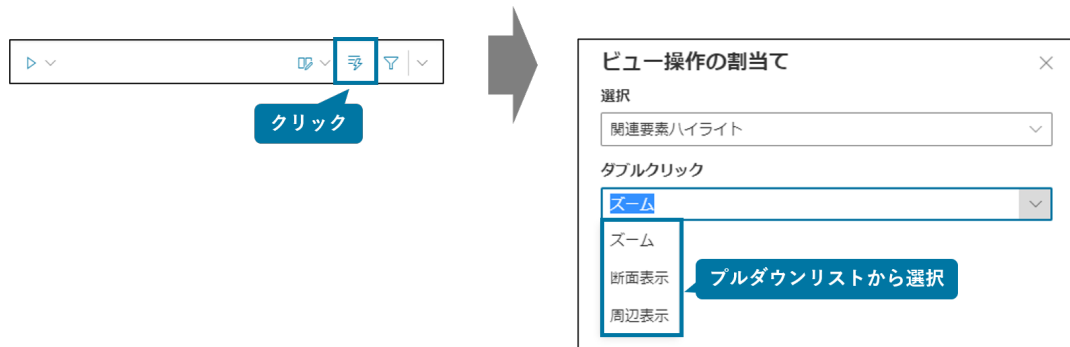
- 。アイテムをダブルクリックすると、該当箇所にズームします。



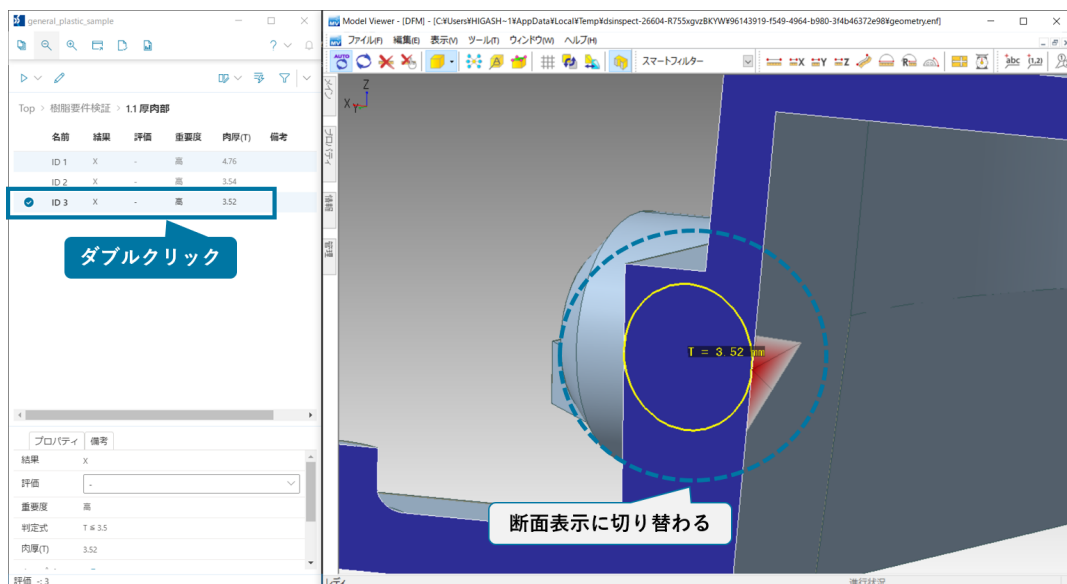
#### 5. Inspectorのプロパティリストの情報およびModel Viewerの3Dビューの情報から、該当箇所を確

認、分析します。

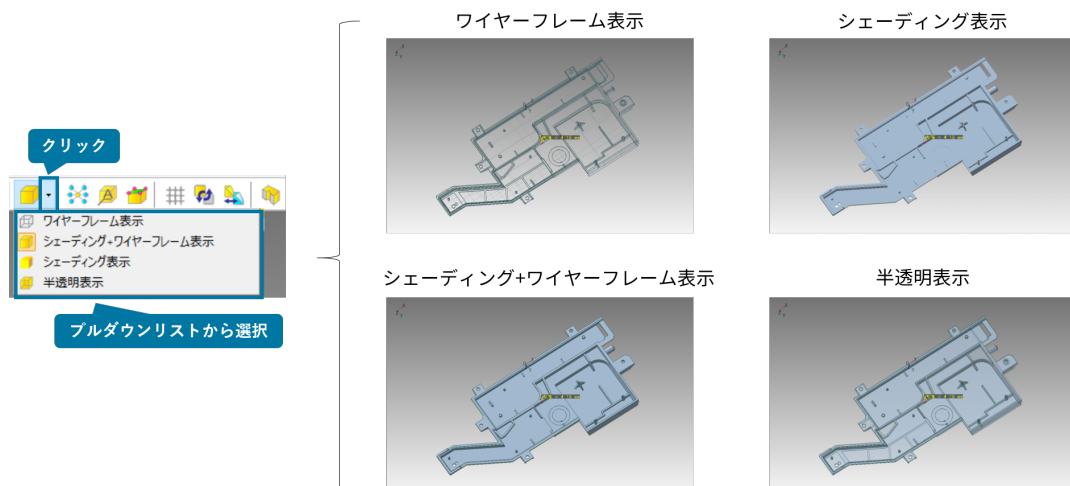
- 3Dビュー表示を断面表示または周辺表示等に変更したい場合は、Inspectorのコマンドバーの「ビュー操作の割当て」を選択し、ダブルクリックに割当てる表示状態を断面表示等に切り替えます。



- ダブルクリックに割当てる表示状態を断面表示に切り替えた場合、アイテムをダブルクリックするとModel Viewerの3Dビューが自動で断面表示になります。



- 3Dモデルの表示状態を切り替えたい場合は、Model Viewerのツールバーから切り替えることができます。



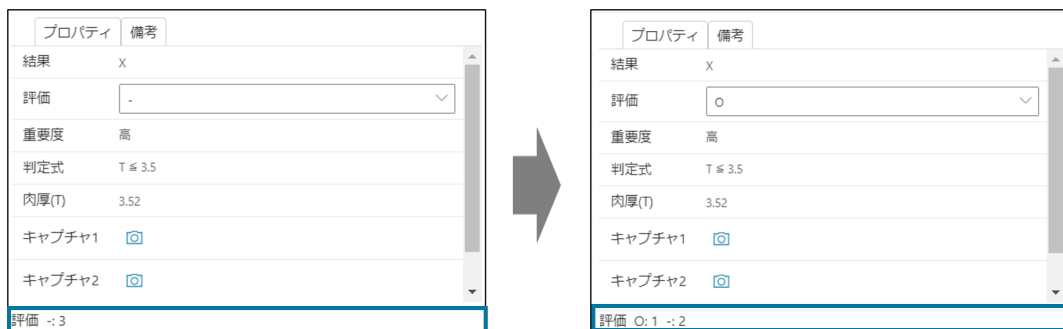


## 6. Inspectorのプロパティリストで、該当箇所に対する評価を変更します。

- 。"o"は合格、"x"は不合格、"- "は未確認であることを表します。検証の結果が合格の場合は"o"、不合格の場合は"- "が評価の初期値として入ります。



- 。評価を変更すると、ステータスバーが更新されます。

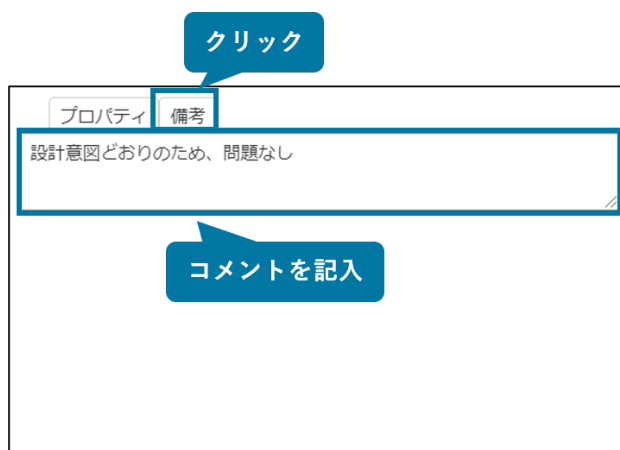


## 7. 確認箇所の3Dビューを保存したい場合は、プロパティリストの 📷 スクリーンショットボタンを押すことで、キャプチャーを撮ることができます。

- 。取得したキャプチャーは、👁 表示ボタンを押すことでプレビュー、🗑 削除ボタンを押すことで削除できます。なおキャプチャーを撮り直したい場合は、再度 📷 スクリーンショットボタンを押します。



## 8. コメントを残したい場合は、プロパティリストの備考に記入します。



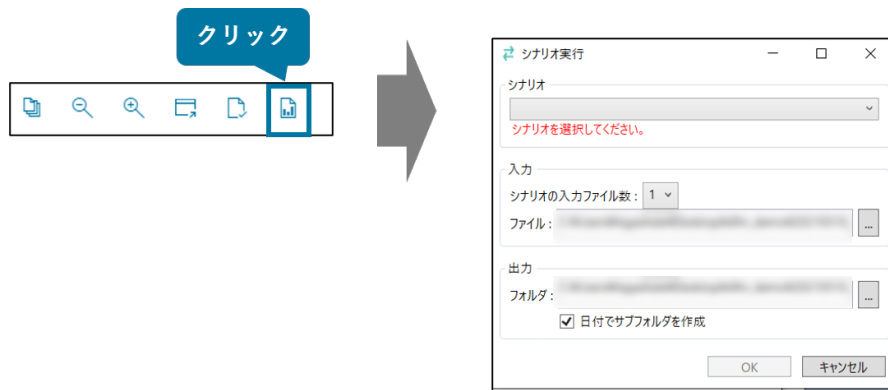
9. 各検証結果を確認し、評価変更、キャプチャー取得、コメント入力を行い、適宜 Inspectorのメニューバーの「ファイル」から検証結果を保存します。



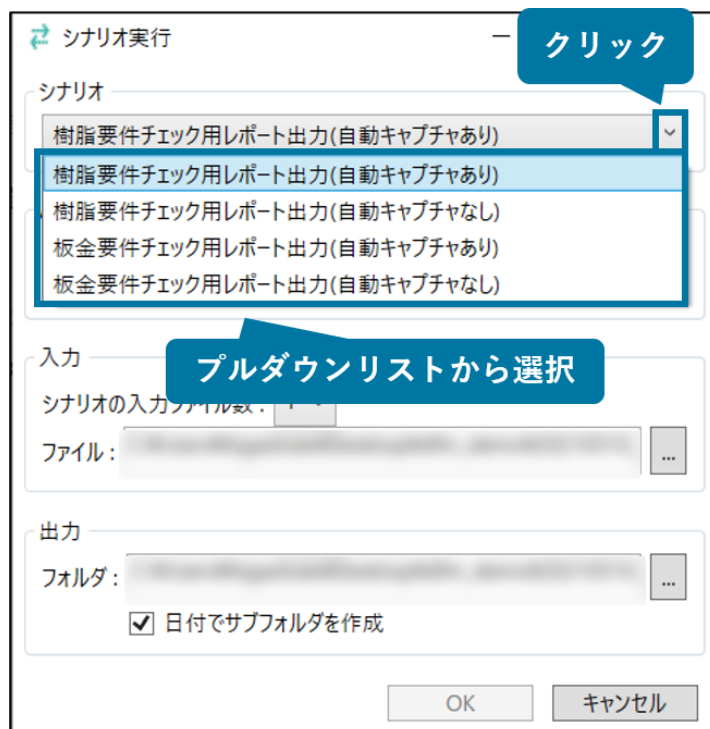
- 。保存した検証結果は、設計基準が守られているか確認したことのエビデンスとして利用したり、他の人と共有することで設計変更の検討材料としたりすることができます。

## 2.2. DFM Studio Reporter を利用する場合


- Inspectorのメニューバーの「レポート出力」を実行し、ASFALIS SmartLauncherのシナリオ実行ダイアログを起動します。
  - 入力データはInspectorに読み込んでいる検証結果(.far)が自動で設定されます。なお検証結果が編集されている場合は、保存するよう促されます。



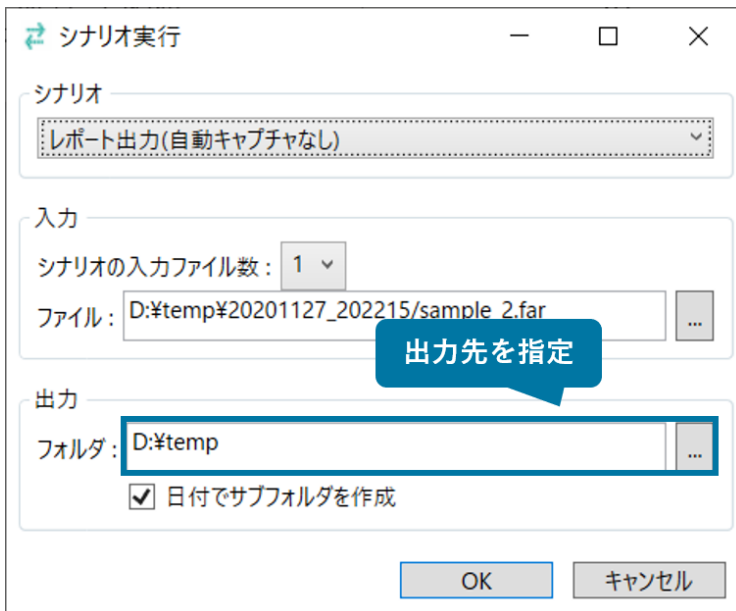
- シナリオを選択します。
  - シナリオ「樹脂要件チェックレポート出力(自動キャプチャーなし)」、「板金要件チェックレポート出力(自動キャプチャーなし)」は樹脂要件チェック結果、もしくは板金要件チェック結果のうち、ユーザーが取得したキャプチャーのみがレポートに出力されます。
  - シナリオ「樹脂要件チェック用レポート出力(自動キャプチャーあり)」、「板金要件チェックレポート出力(自動キャプチャーあり)」は樹脂要件チェック結果、もしくは板金要件チェック結果のうち、ユーザーが取得したキャプチャーに加えて、全体画像および詳細画像のキャプチャーが自動で取得されます。



## 3. パラメータを選択します。

- ・インストール直後は「default」パラメーターのみ指定できます。
- ・システム管理者によって予めレポートパラメーターが設定されているシナリオフォルダーを指定している場合は、設定されたパラメーターがプルダウンリストに表示されます。
- ・🔒 鍵マークが付いているパラメーターは管理者によって設定されているため編集することができません。パラメーター設定ツールを使って別名で保存することで、目的に合わせて編集した個人用のパラメーターを使用することができます。
- ・選択したパラメーターの詳細を確認したい場合、またはパラメーターを変更したい場合は、 ギアボタンを押してパラメーター設定ツールを起動します。
- ・レポート出力パラメーター設定ツールの詳細については、[2.3, “レポート出力パラメーター設定ツールの使い方”](#)を参照ください。

## 4. 出力先を指定します。



5.  OKボタンを押して、レポート出力のシナリオを実行します。

6. シナリオ実行が完了したら、ASFALIS SmartLauncherの変換リストから該当ジョブを選択し、 フォルダーボタンを押します。レポート出力フォルダーが開きます。

- ・出力したMicrosoft Excel 形式のレポートは、設計基準が守られているか確認したことのエビデンスとして利用したり、他の人と共有することで設計変更の検討材料としたりすることができます。



レポート出力にはレポート出力を実行するマシンにMicrosoft Excel  
(バージョン：Microsoft Excel for Microsoft 365 MSO  
(16.0.14026.20202)) が導入されている必要があります。

## 2.3. レポート出力パラメーター設定ツールの使い方

この項では、レポート出力用パラメーター設定ツールの使い方について説明します。詳細は「DFM\_Studio\_Parameter\_Settings\_Tool\_User\_Manual\_ja.pdf」を参照ください。

DFM Studio パラメーター設定ツール					各パラメーターの詳細は、検証項目/形状認識 設定ガイドを参照してください。	
検証On/Off 切替		A	別名保存	B	上書き保存	C
設定終了		D	ファイル削除	バージョン情報		
検証フラグ	カテゴリ	種別	DFMパラメーター名	設定値		
None	1.1 厚肉部	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	1.2 薄肉部位	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	2.1 ボス	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	3.1 リブ	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	4.1 凸シャープエッジ	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	4.2 凹シャープエッジ	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	5.1 凸微小R	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	5.2 凹微小R	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	6.1 アンダーカット	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	6.2 スライドストローク量	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	7.1 金型薄肉	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	8.1 穴:下穴径	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		
None	8.2 穴:面取り量	レポートパラメーター	レポート出力	TRUE		

### A.別名保存

読み込んでいるパラメーターを別名保存します。🔒 鍵マークが付いているパラメーターは上書き保存することができないため、編集したい場合は別名保存する必要があります。別名保存で新しいパラメーターを作成すると、パラメーター設定ツールが終了し、作成したパラメーターが選択されている状態になります。作成したパラメーターは、再利用可能です。別名保存したファイルは、以下に保存されます。

- インストール時に、システム設定および変換設定の適用範囲について「このコンピュータを使用するすべてのユーザー」を選択した場合は、以下になります。
  - 樹脂要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーあり）、樹脂要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーなし）の場合:  
 %PUBLIC%\Documents\Elysium\ASFALIS  
 SmartLauncher\scenario\shared\_param\plastic\_report\
  - 板金要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーあり）、板金要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーなし）の場合:  
 %PUBLIC%\Documents\Elysium\ASFALIS  
 SmartLauncher\scenario\shared\_param\sheet-metal\_report
- インストール時に、システム設定および変換設定の適用範囲について「<UserName>のみ」を選択した場合は、以下になります。


- 。樹脂要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーあり）、樹脂要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーなし）の場合:

%LOCALAPPDATA%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\plastic\_report\

- 。板金要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーあり）、板金要件チェック用レポート出力（自動キャプチャーなし）の場合:

%LOCALAPPDATA%\Documents\Elysium\ASFALIS  
SmartLauncher\scenario\shared\_param\sheet-metal\_report

## B. 上書き保存

選択したパラメーターを上書き保存します。本機能は、 鍵マークが付いていないパラメーターにのみ有効です。上書き保存すると、パラメーター設定ツールが終了し、作成したパラメーターが選択されている状態になります。作成したパラメーターは、再利用可能です。

## C. 設定終了

パラメーター設定ツールを終了します。

## D. ファイル削除

パラメーターファイルを削除します。<ファイル削除>ボタンを押すと、ファイル選択ダイアログが表示され、削除するパラメーターファイルを選択できます。

## E. ラベル

- ・ 検証フラグ: Onは検証する、Offは検証しないことを示します。
- ・ カテゴリ: レポート出力設定、または検証項目名を表します。
- ・ 種別: すべてレポートパラメーターと表示されます。
- ・ DFMSパラメーター名: DFM Studio Inspectorに表示されるパラメーター名を表します。
- ・ 設定値: 設定されているパラメーター値を表します。

本コンテンツに関わる著作権は株式会社エリジオンもしくは原権利者に帰属しています。  
著作権者の承諾なしに無断で改変、複製、転載、再配布、転送、公衆送信、販売、貸与などの  
行為をすることは禁じられています。